

3. 次世代層を対象とした視察調査

(1) 調査概要

調査課題

次世代層における北方領土返還運動を効果的に実施する条件を探った。

- ・ 北方領土視察前、視察後の北方領土問題に対する考え方
- ・ 北方領土問題に対する啓発活動の在り方
- ・ 今の時代に沿った北方領土返還要求運動の在り方、改善点

調査対象

全国の 20 歳代から 30 歳代までの男女から抽出した者 500 人のうち、公募に応募した者から選抜した 9 人。※10 人を選抜したが、1 名が直前の体調不良により辞退

選定について(観点)

- ・調査会社の調査パネル(調査会員)のなかから、性別、年代、居住地(都道府県)の構成比を考慮して、サンプリングを行い、500 人の対象者を抽出した。
- ・500 人に対して、調査対象者に対し本調査の趣旨及び概要を説明した協力依頼状及び北方領土に関する作文の様式を示した応募票を郵送により配布、回収した。回収した対象者のうちから 9 人を選抜した。

視察調査対象者選定条件

視察調査対象者の選定においては、以下に挙げた条件を優先した。

- ◆「北方領土問題」に対する認知・理解が進んでいない人
→スクリーニング調査の「北方領土問題」の認知・理解度において、「問題の内容までは知らない」と回答した人
- ◆「北方領土問題」に対する関心がある人
- ◆情報発信力のある人(Facebook/Twitterだけでなく、Blog を活用している人)
→スクリーニング調査において、Facebook/Twitter活用状況が活発だった人
→対象者選定時の電話確認において、Blog を活用していると回答した人

<サンプル数(視察調査参加者)>

9 人

※対象者について、以下の要素が偏らないように配慮を行った。

- ・性別／年代(30 代/40 代)／地域
※各地域(8地域)から均等に選定することは難しいため、偏りがなるべくないような形で選定した。

調査方法

- ①公募／「北方領土問題について」の作文募集(郵送/Web 調査)
500 名に対して北方領土問題についての作文を募集。
500 名のうち 239 名から回答を得た。
- ②北方領土視察調査
 - ①の課題提出者から 9 名を選抜し、北海道根室市納沙布岬と北方領土問題啓発施設を訪問。元島民からの講和を聞くなどした。
- ③視察後の意見収集(ワークショップ)
視察最終日に、参加者の座談会(ワークショップ)を開催。最終的に感想文を作成してもらった。

調査項目

- ◆公募／「北方領土問題について」の作文募集
 - a.「北方領土問題」や「北方領土」(北方四島)の印象やイメージ
 - b.「北方領土問題」を啓発する活動、広報活動の印象やイメージ
 - c.「北方領土問題」について、知りたいこと、関心のあること
 - d.Facebook/Twitter「北方領土エリカちゃん」を見ての感想
- ◆北方領土視察／視察後の意見収集
 - ・視察調査で印象に残ったもの
 - ・同世代の人たちに「北方領土問題」に関心を持ってもらうプログラム・取組のアイデア
[WebやSNS(Facebook、Twitter など)の活用]
 - ・振り返り／視察調査を通じての北方領土問題への意識・考え方変化

北方領土視察のプログラムメニュー

月日曜	都市名/所在地名	現地時間	交通機関		
1 2月20日(金)	東京(羽田空港) 発 東京(羽田空港) 発 根室中標津空港 着 根室市 着	12:05	NH377	ご集合 空路、根室へ (機内でご昼食) 到着 空港出発(地図A) ●移動中は諸説名と、北方領土に関するクイズ(歴史等) 別海北方展望塔 視察(地図B) ●四島への道・叫びの像の見学 ●国後島を望む 別海北方展望塔出発 ●移動中は北方領土に関するビデオ鑑賞。 「イーストハーバーホテル」チェックイン(地図C) 食事会 (根室市内泊)	
		13:45	専用バス		
		14:00	↓		
		15:00	↓		
		16:30	↓		
		18:00	↓		
		19:00	↓		
2 2月21日(土)	根室市 滞在	6:00	専用バス	ロビー集合 納沙布岬 視察(地図D) ●日本一早いと言われる日の出鑑賞 ●納沙布岬灯台(根室海上保安部所属)見学 「イーストハーバーホテル」に戻り、各自ご朝食 「イーストハーバーホテル」出発 北方館 ●研修室内で元島民による講話会(語り部:中田勇氏) 望郷の家 四島のかけはし ●エリカちゃんと記念撮影 ご昼食 14:00 船 本土最東端パノラマクルーズ(地図赤線) 16:00 専用バス 下船 17:00 「イーストハーバーホテル」到着 交流会 ●地元住民との意見交換 (根室市内泊)	
		6:35	↓		
		7:00	↓		
		8:30	↓		
		9:00	↓		
		12:00	↓		
		14:00	船		
		16:00	専用バス		
		17:00	↓		
		18:00	↓		
3 2月22日(日)	根室市 滞在 根室市 発 根室中標津空港 発 東京(羽田空港) 着	7:50	専用バス	各自朝食・「イーストハーバーホテル」チェックアウト後 ロビー集合 「イーストハーバーホテル」出発 巡視艇くなしり(根室海上保安部所属) 見学(地図F) 北海道立北方四島交流センター(地図G) ●センター内対話ルームにてワークショップ ●感想文の作成 ご昼食 根室市内出発 空港到着(地図A) 空路、東京へ 到着後、解散	
		8:00	↓		
		8:30	↓		
		9:00	↓		
		11:20	↓		
		12:10	↓		
		13:50	↓		
		14:20	NH378		
		16:15	↓		

プログラムのポイント

北方領土問題の過去・現在・未来というテーマで時系列に理解を深められる行程を実施。

元島民の講話以外に地元住民と交流し、地元での北方領土に対する率直な意見を聞いた。

座学による理解に留まらず、地元住民とのふれあいや現地の見学を通じ、リアリティをもって北方領土問題を体感することで、より深い理解を得てもらった。

移動時間も有効に活用し、バス車内で北方領土に関するプログラムを実施した。

参加者9名、北方領土関係者全員で「北方領土エリカちゃん」の着ぐるみと、記念撮影を行った。

「北方領土エリカちゃん」のFacebook・Twitterアカウントにて、視察の様子をリアルタイムで投稿。

参加者9名のそれぞれの様子を写真等で投稿した。

シェア・リツイート、記事へのタグ付け等に関しては参加者本人の任意とした。

特徴のあるプログラム

<過去> 添乗員による基礎知識(歴史等)の解説(1日目)

移動中、北方領土問題に詳しい添乗員がバスの車内にて、北方領土に関する基礎知識(歴史等)を解説した。20-30代にも理解しやすいようにクイズ形式を採用。1日目にまずは北方領土に関する歴史を理解してもらった。

<過去> 元島民による講話(2日目)

根室市在住の元島民による講話を北方館で実施。占領当時の状況を伺うと同時に、北方領土の重要性を理解してもらった。

<現在> 北方領土を間近に望む本土最東端クルーズ(2日目)

地図上にある目では見られない日本・ロシアの中間ラインまで船で到達することで、「北方領土問題」の最前線にいることを体感してもらった。

<現在> 地元住民との交流会(2日目)

本視察に参加する20-30代と世代がほぼ同じ、根室市青年会議所や根室市内の高校生による「北方領土返還要求キャラバン隊」等の地元住民の方々を招き、交流会を実施。同世代ならではの視点から北方領土に関する意見交換を目的とした。

<未来> ワークショップ(3日目)

1~2日目の視察を踏まえ、今後の北方領土問題についての解決方法等を参加者で議論する場を設けた。

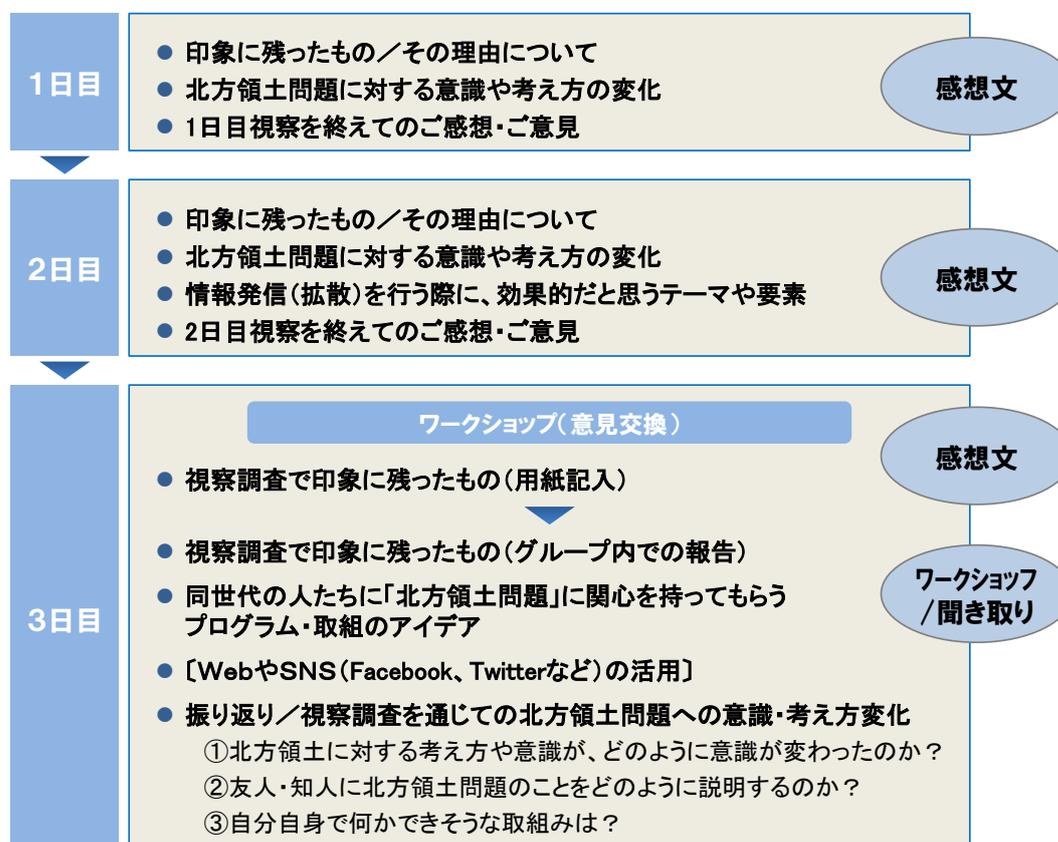
北方領土視察後の参加者からの感想・意見の回収方法及び集約の仕方

1日目から作文用紙を渡し、随時、視察旅行の感想・意見を記入してもらった。

北方領土視察の3日目、視察のプログラムをほぼ終えた段階で、参加者からの感想・意見を回収するために小規模なワークショップを開催した。

→ワークショップ形式とすることで、自分の意見の他に、別の人の意見(視点)で、どのように意識が変容するのか、北方領土問題に対する理解が深まるのか、を測るとともに、次世代層の北方領土問題啓発運動のあり方についての意見を収集した。

→加えて、WebやFacebook、Twitter等のSNSを通じて、どのように啓発活動を行うことが効果的なのか、意見の収集を行った。



視察調査の様子



ワークショップのプログラム内容

日時:2015年2月22日(日) 9:50-11:20(1時間30分)

会場:北方四島交流センター(ニ・ホ・ロ)

参加者をグループ分け(3人×3グループ)

ワークショップでは、若い世代の人たちが視察調査で、どのような情報やコンテンツに接することで、北方領土問題に対する意識が変化するのか、自分ごと化するのかを把握。

グループとしての成果物(同世代に関心を持ってもらうプログラム案)及び、ワークショップにおける各人の発表・発言内容(視察調査で印象に残ったもの/自分自身の意識がどのように変わったのか等)を文章化して整理した。

<ワークショップにおける各セッションの内容>

①視察調査で印象に残ったもの【15分】

- 今回の視察調査で、「北方領土に対する考え方や意識の変化」「そのきっかけになったもの」ものを3つ(3枚)、各自、用紙に記入してもらった。

【記入してもらう内容】

- ・北方領土に対する考え方や意識がどのように変わったのか?
- ・考え方や意識が、そのように変えるきっかけになったものは?

- グループ内で各自発表してもらい共有した。

②同世代の人たちに「北方領土問題」に関心を持ってもらうプログラム・取組のアイデア

〔WebやSNS(Facebook、Twitterなど)の活用〕【45分(30分+15分)】

- 同世代の人(20・30代)に対して、北方領土問題に関心を持ってもらうためのプログラム・取組のアイデアをグループで検討してもらった。

発表は15分(5分×3グループ) ※代表者が発表。

③振り返り/視察調査を通じての北方領土問題への意識・考え方変化【30分】

- 参加者に順番に3分程度、発表をもらった。

<発表テーマ>

- ・北方領土に対する考え方や意識が、どのように意識が変わったのか?
- ・友人・知人に北方領土問題のことをどのように説明するのか?
- ・自分自身で何かできそうな取組みは?